



県立神奈川総合高校 2年

鈴木 夏実さん

国際交流とは何か。中国に滞在している間、そんなことを頭の片隅で考えていました。私が中国に興味を持ったきっかけは中国が舞臺の歴史小説を読んだことで、国際交流が盛んな高校に通っていながらもそれについて深く考えたことはありませんでした。しかし、いざ中国の空気を肌で感じ、外事弁公室の方々や現地の高校生と触れ合う中で、「国際交流の第一歩は相手のことを知ることなのだなあ」と感じるようになりました。実際に中国に行ってみて、それまでの私が中国について無知に等しかったのだと気づいたからだと思います。いかに中国という国が広いのかということ、日本語を必死に勉強している学生がたくさんいること、外事弁公室の方々皆さん日本語がとても達者

で、私たちが温かく迎え入れてくださったこと……。どれも日本にいただけでは知りえなかったことです。私の周りには「どうして中国に行こうと思うのか理解できない」なんてひどいことを言う人がいますが、「あなたたちは中国について知らないことが多すぎるだけなんだよ」と言いたい。そして私が体験したことを教えてあげたい。それが、今回の中国訪問を体験した私の役目なのだと思います。今思い返してみると、中国に滞在した時間は夢のようです。しかし、東北育才外国語学校で素晴らしいスピーチを披露してくれた彼らが今も向こうで頑張っていると思うと不思議な気持ちになります。中国で受けた温かい歓迎を忘れずに、これから中国について貪欲に『知って』いきたいです。



横浜隼人高校2年 富田 响さん

私は第11回神奈川県青少年訪問団に参加できたことにとても光栄に思っています。私は、今回の訪中代表団でやはり「文化と日常生活」を日本との違いを見してきました。例えば、中国の食事形式は、席に着いて少し経った頃に料理が一品ずつに並びます。また食べ終わっていない間に次々と料理は運ばれてきます。同じ机で食事をする人全員が食べ終わっても食べきれないほどのご飯を用意することに驚きました。この中国の旅では、たくさん学ばせていただきました。日中友好のために一番大切なことは、互いに理解し合い、互いを知り興味を持つことだと思います。実際に現地へ行き、肌で感じることもなのです。互いの国民一人ひとりが互いの国に興味を持つだけで、日中関係は大きく

変わります。

私は、最初すごく緊張と不安でいっぱいでしたが、こんなにも素晴らしいものになるとは思いませんでした。自分自身にとって良い刺激となり、貴重な体験になりました。今回の訪問団を通して、自分が今まで考えていた進路が変わりました。もともと中国の文化や経済などを学びたいという気持ちが大きくなりました。今回の訪問団でお世話になった方々に感謝していただきます。本当にありがとうございます。



瀋陽故宮広場にて

寄附金のお礼

この度の高校生の中国訪問にあたっては、多くの皆様からご寄付をいただき厚く御礼申し上げます。

お陰さまで3名の高校生は、親善大使として立派にその使命を果たしてくれました。

次世代を担う青少年が中国に行き、フェース・ツー・フェースで交流する意義は、極めて大きなものがあります。

今回交流を深めた日中両国の高校生は、将来にわたって日中友好の懸け橋となってくれることでしょう。

当協会としても今後も青少年交流に力を入れてまいりますので、引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

神奈川県日中
友好協会

会長 並木裕之